

イベントレポート 『2012 GT耐久東海シリーズ 第5戦』

開催日 2012年12月9日(日)

13:00 決勝スタート 16:00 チェッカー

天候 曇り時々晴(路面ドライ)

最高気温 6.3℃(15時)

場所 スパ西浦モーターパーク

参加台数 27台

2012年シーズンを締めくくるGT耐久東海シリーズ第5戦が、27台の参加台数を集めて、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。

昨日からの寒波に襲われ、12月としては異例の寒さの中ではあったが、最終戦にふさわしい盛り上がりとなった。タイトル争いや新規参加チームの走りにも注目された。



「1+2C」クラス(1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車のクローズドクラス)

#41「DXLシーワンNチーム シティ」は前戦まででタイトルを決めていることもあり、今回はOPクラスでの参加となり、代わりに#171「ワンナイヴィッツ」が初参加。

第2戦以来の#449「KIT-CCストーリー」、前戦で嬉しい初優勝を飾った#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」に、前戦では初参加ながらクラス最速を記録し侮れない速さを持った#70「トータルセブン シビックGT」の4台での争いとなった。



■予選

予選でクラス最速を記録したのは、#171「ワンナイヴィッツ」1'09.118。初参加がいきなりの予選1番手と躍進を予想させる。

2番手には#449「KIT-CCストーリー」が1'12.397とまずまずで続く。一方前戦優勝の#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」は1'14.068、#70「トータルセブン シビックGT」は1'14.730とそのポテンシャルのすべては出してはいない様子。



■序盤

決勝は予想通り序盤から接戦。1時間を経過した時点では、1位、#70「トータルセブン シビックGT」と2位、#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」が同一周回で激しいつばぜり合い。3位#171「ワンナイヴィッツ」も義務ピットの関係から3周差となっているが、ほぼ差はない模様。

残念なのは#449「KIT-CCストーリー」、義務ピット時間不足のペナルティストップを受けてしまう、さらにはそのペナルティ実行違反のため6週の周回数減算となることに、返す返すもこのようなミスはもったいない。



■終盤

中盤から終盤にかけても、上位3台はほぼ一周回で激しく争う。2時間経過時点では1位、#70「トータルセブン シビック GT」が82Lap、#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」が81Lap、3位#171「ワンナイヴィッツ」が79Lapとしぶとく続いている。

1500ccのワンカム SOHCながらタイプRとほぼ同じ足回りを持つEK3シビックに2台のヴィッツが挑む構図で終盤戦へと流れていく。

■最終結果

最終的に勝利を手にしたのは、102Lapを走り切った#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」。第4戦に続く2戦連続クラス優勝で、自信を深めた様子。2位は#171「ワンナイヴィッツ」100Lapには一周及ばなかったものの、初参加で表彰台を獲得。

#70「トータルセブン シビック GT」は7秒台で走る最速タイムが、結果に結び付けられず悔しい思い。ペナルティなどがあった#449「KIT-CC ストーリア」も4位で完走。見事なのは、#171「ワンナイヴィッツ」、最速タイムこそはクラス最遅の10秒026だが、2位に持つてくるあたり実力派と見える。

シリーズタイトルは前戦で決めた#41「DXL シーワン N チーム シティ」、2位は#27「ルブロス PROFIT ヴィッツ」、3位は#70「トータルセブン シビック GT」、そして第3戦優勝の#24「改瀬工業 VTI シビック」となった。

近年のコンパクトカーの主流でありながら、レースイベントでは比較的マイナーな1500cc以下のマシンたちでも楽しみ、さらにリッターカー有利と他のイベントと比較しても特徴的なこのクラスは、来期以降は注目度も高まることを期待できそうだ。



「3C」クラス（1501cc以上のNA車と、1201cc以上の過給機付き車のクロズドクラス）

#28「爆笑アクセントB スターレット」は前戦まで4連勝ですでに今シーズンのタイトルを手中に収めている。最終戦でも勝って満点チャンプを決められるか。

2位以下は10ポイントの中に4チームがひしめく大混戦、順位の変動はシリーズ成績を大きく左右する。初参加のチームも2チームあり、ますます盛況のこのクラス、有終の美を飾るチームはどこか。

■予選

予選1番手は、#830「WN CLNシビック」1'02.453。総合でも2番手でフロントローに並ぶ、ここまでシリーズ2位の實力をいかんなく発揮し、最終戦で勝利を目指す。

予選2番手は、#28「爆笑アクセントB スターレット」1'03.060、逆転でタイトルに花を添えたい。

3番手以下は混戦、#106「D&M スパイクオート 106」1'03.400、#111「S'tec AE1 ファジートレノ」1'03.705、#450「味長持ち3時間 アコード」1'03.705と1分3秒台でしのぎを削っている。

6番手からも、#75「DXL SPM シーワン EP82」、#36「剛式レーシング 318Is 耐久号」、#33「ボディショップ国盛 WP ミラージュ」が1秒差に中に続き、こちらも混戦模様。

中団からは#15「カムコ 箱根仕様 DXLレビン」、#11「金沢大学自動車部 DXLシビック」がチャンスをうかがう。

初参加組の#301「ねぎプロZ トレノ」、#107「トータルセブン ロードスター」は、#52「MSCJ奈良 ロードスター」を挟んで後方からではあるが完熟走行～予選をクリアして初めてのGT耐久東海シリーズのグリッドにつく。

■序盤

序盤からトップ争いは、#28「爆笑アクセントB スターレット」、#830「WN CLNシビック」、#75「DXL SPM シーワン EP82」あたり、1時間経過時点では#75「DXL SPM シーワン EP82」が先頭に立つが、中団あたりまでは混戦模様で、どのマシンが抜け出しても不思議ではない展開。

初参加組の#301「ねぎプロZ トレノ」と#107「トータルセブン ロードスター」も耐久のペースに慣れてきたようで、しっかりと走行している。

■終盤

中盤から終盤にかけては赤旗中断が時に連続して発生する荒れた展開に。ドライビングミスもそうだがペナルティなどには注意したいところだが、#11「金沢大学自動車部 DXLシビック」がピットロード速度違反でドライビングスルーを課された。その後の実行違反で2周減算と残念な結果に。他のクラスでもあったがこれはもったいない。

2時間が経過し荒れた中でも、しっかりと上位走行しているのはさすがの#75「DXL SPM シーワン EP82」と#28「爆笑アクセントB スターレット」が2周差でトップ争いをしている。



中位グループの争いも熾烈で、3位から7位までが3周差で続き、目が離せない展開になっている。特に年間の上位をかけて争っている、#111「S'tec AE1 ファジートレノ」が3位、#450「味長持ち3時間 アコード」が4位、#106「D&M スパイクオート 106」が5位でこのあたりはともに 85Lapで一步も譲らない。

■最終結果

最終盤においても赤旗が降られるという、最後まで気が抜けないレースを制したのは、#28「爆笑アクセントB スターレット」、2位の#75「DXL SPM シーワン EP82」に3周差をつけてのトップチェッカーは堂々の総合優勝！GT耐久東海シリーズ初の満点タイトル、さすがの実力を見せつけた。#75「DXL SPM シーワン EP82」もこの2位で年間2位にジャンプアップ。

3位は#450「味長持ち3時間 アコード」が入り、開幕戦以来の表彰台に上り、年間4位。年間3位を死守したのは#111「S'tec AE1 ファジートレノ」で、このレース6位となった貴重なポイントがものをいった格好だ。

4位は#106「D&M スパイクオート 106」で、#36「剛式レーシング 318Is 耐久号」との外車対決を同ラップで制し、#36 が5位となった。

初参加組では#301「ねぎプロ Z トレノ」が 98Lapを走り9位、#107「トータルセブン ロードスター」も 95Lapで見事完走。

満点チャンプの#28 以下は2位から5位までがわずか5ポイント差という誠に僅差となった年間争いに象徴される 3Cクラスは、ターボ車とテンロクNAの対決にインポートカーがからむというバラエティに富んだ車種構成で見る者も楽しませてくれた。

ボーイズレーサーとして一世を風靡した車種が多いのがこのクラス、来年は新たなチャレンジャーが現れるのか興味は尽きない。





「30」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

ハイチューニングOK・排気量区分なしのいわば無差別級なのがこのクラス。小中排気量 NA、インポートカー、ターボ、大排気量、さらには 4WD ターボと異種格闘技的な雰囲気もあり、いわゆるチューニングカー好きにはたまらない奥の深い楽しみがある。

さて今年のタイトル争いであるが、ここまで2勝の#110「アライメント浜松 シティ」が頭一つリードし、#96「Team KRS WN CLN シビック」と#56「RS 正和 ナフティースターレット」が追う展開。数字上はこの3チームにタイトルの権利があるが、前戦優勝の#18「T-BODY EXCEL-R インテグラ」など強豪が参加しての争いは見ごたえ十分。



■予選

予選1位は、#18「T-BODY EXCEL-R インテグラ」1'01.800。唯一の1分1秒台を叩きだし、全体でもポールポジション。第2戦、第4戦に続き今年3回目の予選トップ、やはり速い。

続いて2位のタイムを記録したのは、#110「アライメント浜松 シティ」1'02.560、こちらも第3戦では全体のポールを取っており、速さには定評があり、対決が楽しみ。3番手には#19「YADOKARI シビック」1'03.356、ここまでではすべてホンダ車。

4番手には#56「RS 正和 ナフティースターレット」1'04.597、開幕戦優勝で現在のランキングは3位。以下5番手、#96「Team KRS WN CLN シビック」1'05.389、6位#13「山ちゃんスターレット」1'05.457で、こちらはターボ。

7位#180「M.M.S.180SX」1'07.211、8位#9「勇希 100% 男前定食シビック」1'07.567、9位は1+2クラスでチャンピオンを決めている#41「DXL シーワン N チーム シティ」がオープンクラスで出場1'07.980、最終列に9位#2「NGRSトレノ」1'15.589、#2は普段は「レビン」で出場しているが、音量対策のためレビンは改修中。普段乗っているトレノでエントリー。

■序盤

序盤でトップに立ったのは、#110「アライメント浜松 シティ」、それを予選1位の#18「T-BODY EXCEL-R インテグラ」が追う。1時間経過時点でもこの構図は変わらないが3番手には#41「DXL シーワン N チーム シティ」がつける。ピットタイミングではあるものの大健闘。

4位は#96「Team KRS WN CLN シビック」、チャンピオン争いのためには遅れるわけにはいかない。反対に残念なのはランキング3位の#56「RS 正和 ナフティースターレット」がリタイヤしてしまったことだ、これによりチャンピオン争いは#110と#96の2チームに。

以下、5位#13「山ちゃんスターレット」、6位#19「YADOKARI シビック」、7位#2「NGRSトレノ」、8位#9「勇希 100% 男前定食シビック」となっている。

■終盤

中盤から終盤にかけては赤旗中断が続く展開。トップを走る#110「アライメント浜松 シティ」を、#96「Team KRS WN CLN シビック」と#18「T-BODY EXCEL-R インテグラ」が順位を入れ替えながら追う。

2時間経過時での周回数は、#110が94Lapで全体でもトップ。#18は89Lap、#96が88Lap、以下は#19「YADOKARI シビック」が83Lap、#13「山ちゃんスターレット」は82Lap、#2「NGRSトレノ」は81Lap、#9「勇希 100% 男前定食シビック」が80Lap、#180「M.M.S.180SX」が77Lap。

優勝争いは上位3チームに絞られたようだが、中団クラスでも競った争いが続いている。残り一時間が勝敗の分かれ目だ。

■最終結果

最終盤においても赤旗が降られる、最後まで波乱含みのレースで優勝を飾ったのは、#18「T-BODY EXCEL-R インテグラ」で、第4戦に続く2連勝。同ラップでの2位は#110「アライメント浜松 シティ」、3位には#96「Team KRS WN CLN シビック」。



混戦の中団を抜け出し#19「YADOKARI シビック」が4位。5位#13「山ちゃんスターレット」、6位#2「NGRSトレノ」、7位#9「勇希100% 男前定食シビック」、8位#180「M.M.S.180SX」と続き、#41「DXLシーワンNチーム シティ」は完走扱いの9位で順位が確定した。

2012シーズンを制したのは#110「アライメント浜松 シティ」、小排気量ながら軽量ボディを活かしての速さが光る。昨年の1+2クラスからクラス変更で厳しいかと思われた戦前の予想を覆しての見事栄冠、不調だった開幕戦を除けば優勝か2位かという安定感が光った。

年間2位は#96「Team KRS WN CLN シビック」、優勝こそないが確実に上位フィニッシュに持ってきており、一つ勝てば立場は逆転していたかもしれない、点数以上に僅差の争いだった。3位には終盤の2連勝で#18「T-BODY EXCEL-R インテグラ」が入った。こちらは第2戦のノーポイントが痛かった、レースにタラレバはないが速さは申し分なく、来季も期待が持てる。

最終戦はマシン改修中のため街乗り用のトレノで出た#2「NGRSレビン」や、終盤調子の上がらなかったものの雨の開幕戦でフロントローに並んだ#180「M.M.S.180SX」などのFRのハイパワー車といった”いじる楽しみ”があるこのクラスは草レースの魅力存分に兼ね備えたクラスでもある。大小の排気量が入り乱れて覇を競うオープンクラスは、2013年もイベントの華と期待したい。



